

令和3年度 施政方針

2月15日に開催された市議会本会議で、木山耕三市長が令和3年度の施政方針を述べました。その一部を抜粋して紹介します。(全文は市ホームページに掲載しています)

1. はじめに

平成17年3月の庄原市誕生から早16年の歳月が過ぎようとしております。この間、私は2期8年にわたり、市政のかじ取り役として、市民の皆さんの負託に応えるべく、「地域産業」暮らしの安心」にぎわいと活力」を政策の柱として「庄原いちばんづくり」を掲げ、地域の活性化にまい進してまいりました。



こうした中、おとしし12月、新型コロナウイルス感染症の発生が報告され、瞬く間に世界中に感染が拡大し、政治・経済、そして人々の生活に大きな混乱を生じさせました。我が国においても昨年1月、国内で初の感染者が確認されて以降、感染拡大が続き、3月には東京オリンピック・パラリンピックの延期が決定される事態となりました。4月には初の緊急事態宣言が発出され、行動自粛による経済活動の停滞、感染者の急増による医療体制の逼迫など、今なお、国民生活全般に深刻な影響を及ぼしております。

本市において、令和2年度は市制15周年、また中国四川省綿陽市との友好提携30周年を迎えるなど、節目となる記念の年でありました。しかし、こうした記念行事はもとより、さまざまな会議・会合や地域のイベント、芸術・文化活動など、市民の皆さんとの積極的な交流や、「まちづくり」における意見交換の機会について、その多くを中止・延期せざるを得ない1年でありました。

また、昨年7月には九州南部を中心とした大規模な豪雨災害が発生し、平成30年7月豪雨災害からの復興の途上である中、本市においても再び大きな被害を受けました。

こうした社会全体の閉塞感や、市民活動への制約が広がる中、売り上げが急減した事業者への経営継続や雇用維持への支援、また、負担感が増大した子

2. 市政運営の基本方針

まずは、本市における最上位の行政計画であります「第2期長期総合計画」に基づく施策の推進でございます。

平成28年度から10年間の計画である「第2期長期総合計画」は、新年度から折り返しの5カ年がスタート致します。前期期間の成果を踏まえ、5つの基本政策に基づく施策を展開し、本市の将来像「美しく輝く里山共生都市」の実現に向け、最重要課題である人口減少対策の取り組みを着実に進めてまいります。

次に、これまで培ってきた「庄原いちばんづくり」の理念を基盤とした、新たな着想による地域の活力の創出でございます。

市長就任以来、「地域産業」暮らしの安心」にぎわいと活力」を旗印に、



庄原市こども未来広場完成式並びに庄原ひだまり広場落成式の様子

「比婆牛」ブランドの復活、庄原米のブランドづくり、産科医療再開と体制の維持、庄原市こども未来広場の整備、「定住アクションプラン」の推進や「比婆いざなみ街道物語」の展開などにより、産業の振興や、暮らしの安心の提供、にぎわいの創出を図ってまいります。

この「庄原いちばんづくり」が描き出す、ふるさと庄原の将来像を市民の皆さんと共有し、「心のいちばん」を実感できる「まちづくり」を推し進めてまいります。

加えて、新型コロナウイルス感染症から市民の皆さんの健康と地域経済を守り抜く取り組みでございます。

本市では、これまで国・県、医療機関など関係各所と緊密な連携を保ち、感染拡大の防止に努めてまいりました。こうした中、昨日、新型コロナウイルスのワクチンが厚生労働省により正式承認され、医療従事者への先行接種の後、接種体制が整う4月以降、国が定めた優先順位によりワクチン接種が開始されます。本市においても、医師会や関係機関の協力をいただき、接種体制について周到な準備により、円滑なワクチン接種を実施致してまいります。

このほか、国の令和2年度第3次補正予算の活用や、地域の実情を踏まえた市独自の支援策により、喫緊の課題である感染症の拡大の防止と、事業継続・雇用維持への取り組みにより、さまざまな不安要因の払拭に努め、安心・

安全な市民生活と、活力ある地域経済の維持に向け、引き続き全力を傾注してまいります。

なお、コロナ対策など国・地方を通じて、今後、極めて厳しい財政状況が想定される中、本市の基本的な財政運営につきましましては、平成29年11月に策定した「第2期持続可能な財政運営プラン」に基づくものとしております。市民の皆さんのご理解をいただく中で、これまで取り組んでまいりました歳入確保と歳出抑制の取り組みを継続し、その効果を堅持することで安定的な行政サービスの提供に努めるとともに、社会経済情勢の変移に即応すべく、国・県の動向を注視し適切かつ迅速に対応致してまいります。

3. 庄原いちばんづくりの主要事業

● 「地域産業」のいちばん

▼新たな可能性で切り開く「稼ぐ」地域産業の構築

本市の地域資源を活用した新たな機軸として、酪農・乳業および観光牧場を展開する「総合型観光農場」の調査・研究を進めるとともに、市内への酪農団地の誘致を検討してまいります。

また、「22世紀の庄原の森林づくりビジョン」を具現化し、庄原材を原材料とした製品開発や、庄原材の安定供給と加工体制確立のため、「庄原材活用研究会」の活動と並行しての調査・研究を行ってまいります。



森林体験交流施設に生まれ変わる旧古頃小学校

同じく、「ビジョン」に掲げる「みらいを担う人を育む林業」を実現するため、旧古頃小学校を改修し整備した森林体験交流施設では、森林体験活動を通じて森林の持つ機能や効果を学ぶプログラムを提供し、森林に対する理解と関心を醸成するとともに、林業技術の習得につながる仕組みづくりを研究すること、地域林業の活性化の促進を図ってまいります。

▼「食の宝庫 庄原」の強みを活かしたブランディング

県内初の地理的表示保護制度(GI)登録を果たした「比婆牛」について、安定供給を図るための増頭支援や県内外へのPR活動、市内の「比婆牛」取り扱い店舗のPR活動などを支援すること



新型コロナウイルス感染症への対応



キャッシュレス決済カード「いざなみカード(な・み・か)」



新焼却施設 完成予想図

で、一層のブランド力強化に力を注いでまいります。
また、こだわりの生産方法で全国的にも高い評価を得ている庄原産「ブランド米」について販売促進などの支援を継続し、さらなる知名度とブランド力を高め、農家所得の向上につなげてまいります。

▼新たな時代の潮流を取り込んだビジネスモデルの構築

「新しい生活様式」の実践にかじを切り始めた企業のニーズを的確に捉え、本市の地域資源を活用したワーケーション構築の調査や、県の施策と連携し、市内への新たなサテライトオフィスの誘致推進、また既存施設の改修による体験施設の整備に取り組み、関係人口を創出、拡大してまいります。

また、コロナ禍により影響を受けた市内経済の回復と市民生活への支援として実施しておりますキャッシュレス決済推進事業について、非接触型決済カード「いざなみカード」の利用促進を支援し、感染拡大防止に加え、「新しい生活様式」の展開と地域内経済循環の確立を図ってまいります。

●「暮らしの安心」のいちばん

▼安心を実感できる子育て環境の整備
庄原赤十字病院における周産期医療の安定的な運営を維持するため、引き続き支援を行います。

さらに、市内全域への病後児保育施設の設定に向け、新年度では東城保育

所に病後児支援室を整備するとともに、利用ニーズの増加が想定される小学校放課後児童クラブ実施施設について、整備方針をまとめ、計画的な施設整備に着手することで、多様化する就労形態に対応する子育て環境を充実してまいります。

▼安心・安全で快適に暮らせる生活基盤の確保

災害時などにおける、住民告知システムによる迅速かつ確実な情報発信を行うため、防災情報伝達制御システムならびにIP告知用サーバ機器を更新するとともに、避難場所や土砂災害警戒区域などの情報を網羅したハザードマップを更新することにより、円滑に避難情報を伝達し、早めの避難を促すことで、命を守る行動につなげてまいります。

また、環境性能が高く、避難所の非常用電源としても活用可能な電気自動車を用電車の更新に合わせ導入し、国の目指す低炭素社会の実現に沿った取り組みを進めます。

新焼却施設の整備では、来春の施設稼働を見据え、プラント建設工事を完成させ、適切なごみ処理対策を推進致します。

▼地域で活躍できる次代を担う人材育成
将来にわたる児童・生徒の学習環境の向上を図るため、小学校ならびに中学校施設の安全性の確保や、機能維持に向けた改修および長寿命化について、方針を決定してまいります。

設の整備・改修、産前産後を通じた切れ目のない支援体制の構築など、安心して子どもを産み、育てる環境の充実に力を注いでまいりました。

基幹産業の活性化では、かつてその名声を轟かせていた「比婆牛」ブランドの復活と、その確かな品質の裏付けにより、和牛としては中四国で初となる、地理的表示保護制度（GI）への登録が実現致しました。また、全国各地のコンクールで好成績を残した「庄原ブランド米」の産地拡大などの支援により、農畜産物のブランド化を推し進め、「食の宝庫 庄原」のイメージ向上につなげてまいりました。

生活基盤を支える公共施設の整備事業では、庄原市民会館および庄原自治振興センター、庄原市斎場ならびに新焼却施設について、関係者の皆さんの声を丁寧にお聴きするなかで、利用者の利便性を確保した上で、公共施設マネジメントによる施設の集約化を勘案して、現在地での整備方針を決定し、各施設ともに計画的に整備を進めているところでございます。

また、教育環境の整備では、市内全ての小・中学校に冷房設備を整え、本市の次世代を担う児童・生徒たちが、安心して学校生活を送ることのできる環境を整えるとともに、学校の適正規模・適正配置の実施に当たっては、保護者や地域住民の皆さんの思いをお聴きし、子どもたちの教育環境の向上を最優先に考えてまいりました。

せ、都市計画区域におけるまちづくりの基本的な方針である「庄原市都市計画マスタープラン」の改定と、その高度化計画である「立地適正化計画」の策定に着手し、医療福祉、商業施設や公共交通などのさまざまな都市機能の在り方を踏まえて、区域の将来像を描いてまいります。

▼多様な地域資源を結び、輝かせる連携軸の構築

コロナ禍により、「3密」を回避するアウトドア施設の利用者ニーズの高まりなど、新たな観光スタイルが注目される中、キャンプ場などの屋外体験施設への誘客に効果的な活用策を調査・研究し、施設整備方針をとりまとめまいります。

加えて、県東部に位置する2市2町の歴史遺産や農産物、観光資源などをつなぐ「東部連携新街道」を新たな広域連携の主軸として、「比婆いざなみ街道」との相乗効果を図りつつ、沿線地域の活性化を進めてまいりたいと考えております。

4. おわりに

さて、私は平成29年4月、市民の皆さんのご支持、ご支援を頂き、以来、市長として2期目の歩みを刻んできました。この間、さまざまな課題に対して真摯に向き合い、その解決に向け市政運営を推進できましたことは、市民の皆さんならびに議員各位のご理解



超高速情報通信網を活用した住民告知端末

とご支援のたまものであり、深く感謝申し上げます。

この4年間に於いて、多岐にわたる分野の皆さんと「まちづくり」について連携・協力し、「庄原いちばんづくり」の施策を共に推進することで、成果を上げることができました。

その一端を申し上げますと、光ファイバーによる超高速情報通信網を市内全域に整備し、住民告知端末による災害時の緊急放送や防災情報の即時伝達が可能となりました。併せて、市政情報発信についても、住民告知端末を活用して行うことで、多様な手段による適時な情報の発信を行っております。

また、長らく中止されていた市内での産科医療について、再開を果たすことができました。さらに、小児科診療所・病児病後児保育施設、庄原子育て支援施設を一体的に整備した「庄原子ども未来広場」の完成、各地域の保育所・病後児支援室および子育て支援施設

●「にぎわいと活力」のいちばん

▼人口ビジョンに基づく将来人口の確保と地域課題解決への挑戦

今年度改定致します「庄原市人口ビジョン」による将来人口の確保に向け、転入者に対する住宅取得や改修に係る定住促進奨励金の支給、空き家活用への支援などを行ってまいります。

▼にぎわいを生み出すさらなる魅力の創出

庄原市民会館および庄原自治振興センターの大規模改修について、新年度から本体改修工事に着手致します。

また、広島県が策定を致します「備北圏域都市計画マスタープラン」に併



大規模改修工事に着手する庄原市民会館

今後は、こうした本市の魅力を高める取り組みを継続することに加え、新型コロナウイルス感染症がもたらした社会の変容を見据えた、新たな施策も求められております。時代の変革期にある今、従来の社会の価値観を大きく転換させる政策である「脱炭素社会の構築」と「生活全般におけるデジタル化」について、その動向を注視し、これからの「まちづくり」において、的確な対応を進めていかなければなりません。

そうした、ポストコロナ時代における「新しい日常」に立脚した着想も取り入れつつ、令和3年度では、地域課題の解決と地域活力の創造を実現する主な道筋を、「第2期庄原いちばんづく



GI登録された比婆牛





「22世紀の庄原の森林づくりビジョン」が目指す姿

り」として、お示し致します。

まず、「22世紀の庄原の森林づくりビジョン」で目指す姿「儲かる循環型林業」の具現化でございます。

この「儲かる循環型林業」は、「環境に貢献する持続可能な林業」「経営が成り立つ自立した林業」「みらいを担う人を育む林業」の3つが相互に作用することで、達成されると考えております。それぞれの施策において、適切な森林整備や再造林による「経済林」の生産能力向上、庄原産材のブランド力向上および市場の開拓、ならびに森林体験交流施設の活用による人材育成など、森林・林業の魅力づくり事業に取り組み、22世紀を生きる次世代に対し、本市の素晴らしい森林資源を責任を持って

託すため、取り組みを進めてまいります。

続いて、本市が誇る、豊かで上質な食資源のさらなるブランド力の向上でございます。これまでの取り組みによって、「比婆牛」「庄原産ブランド米」に代表される、庄原産農畜産物が消費者に再認識され、各方面で高評価を得ております。今後におきましても、生産者に対する地道な支援を継続し、生産力の維持・向上を図りつつ、効果的な宣伝広告によるさらなる知名度向上、ならびに市内店舗による、産地ならではの味覚の提供を支援するなど、「庄原ブランド」のさらなる高みを目指す取り組みを推し進めてまいります。

コロナ禍は幅広い経済活動に大打撃を与えておりますが、深刻な状況の業種の一つとして、観光業がござります。本市は数多くの観光資源を有しておりますが、このたびのコロナ禍では多くの観光事業者が、大変な苦境に直面致しております。中でも、日本郵政株式会社から本市に譲渡の打診を受けている「かんぼの郷 庄原」は2度の休館を余儀なくされ、比婆道後帝釈国定公園内の観光拠点施設である「広島県立県民の森」および「休暇村吾妻山ロッジ」も、経営不振により営業を中止致しております。

一方で、コロナ禍以後の観光ニーズは、「密」を避けるため、従来型の観光スタイルからの変化が見てとれ、アウトドアレジャーなど自然と調和した観光

施設が脚光を浴びつつあります。こうしたポストコロナにおけるニーズを踏まえ、「広島県立県民の森」におきましては、本年4月から新たな管理体制がスタートを切る見込みであり、これらと緊密な連携・協議を重ねてまいります。また、「休暇村吾妻山ロッジ」におきましては、施設運営に魅力を感じている民間事業者もおられることから、県や関係機関との連携を図ってまいります。

「かんぼの郷 庄原」につきましては、現下のコロナ禍の状況から取得の可否について判断をお示しできておりませんが、昨年開催した市内公共の団体に対する説明会では取得を求める意見が多くを占め、また、各種団体からは市の取得についての要望書もいただいております。今後、情勢を見極めつつ、必要性を議論し、方向性をお示しいたと考えております。なお、「鮎の里公園」につきましては、現在の指定管理者から、指定管理の取り消しの申し出がされており、今後の対応について協議致しているところでございます。

以上、私の市政運営に懸ける思いを述べてまいります。

今後、コロナ禍の影響により、従来の手法による交流や広聴活動については、困難な状況が続くことも想定されます。そうした環境にあっても、対策や工夫を講じることで市民の皆さんとの対話を積み重ね、暮らしに寄り添った施策を展開することが大切であると認

識致しております。

新年度におきましても、市民の皆さんが「ふるさと」を誇りに感じ、夢と希望を絶やさず、暮らしを営むなかで「やっぱり、庄原がいちばんええよ」と心から思える「まちづくり」に全身全霊を傾注致してまいる所存であります。

議員各位、ならびに市民の皆さんのご理解とご協力を心よりお願い申し上げます。私の施政方針と致します。

